

実施計画事業番号	計画細目	計画実現のための取組	令和5年度の取組実績	達成状況
取組1	食品ロスの削減	フードシェアリングアプリの導入に向けた検討	近隣自治体の活用状況、システム環境、事業者への周知に向けた準備など、アプリの導入に関する検討調査を進めた。令和5年度に実施したごみの組成分析調査の結果から、食品ロスの割合が増加したことなども踏まえ、現在、関係部署の横断的な連携による食品ロス削減対策の展開に向けた体制整備を進めていることから、引き続き、先行導入している小金井市や八王子市などの事例調査を継続し、市における導入効果、参加事業者の可能性などを検討していく。	A：達成できた
取組2	プラスチック類の資源化	ペットボトルの水平リサイクル導入に向けた検討	プラスチック資源循環を推進し脱炭素社会の実現に貢献するという観点から、府中市、稲城市、多摩市に続き、令和5年度から、八王子市・国分寺市・国立市が開始するなど、都内でも徐々に広がりを見せており、その動向を注視した。 新リサイクルセンターの更新後の本格導入に向けて、引き続き、三鷹市、ふじみ衛生組合と連携して検討を進めるとともに、施設更新工事に伴い、焼却予定であったペットボトルの約2割に関しては、ふじみ衛生組合と飲料事業者との協議により、収集量の約2割を水平リサイクル導入により資源化するスキームを確立し、更新工事の実施計画に位置付けられた。その他の事業者とも、ニーズ調査や処理スキームの確保などについて、引き続き、検討していく。 また、コンビニエンスストア事業者と連携した店頭回収による水平リサイクルの取組については、調布市・三鷹市の収集量のスケールメリットを示しながら、店頭回収による水平リサイクルの取組を連携して行うことを提案した。その結果、市が負担する一部費用及び処理業者の確保といった課題が明らかになったことから、実現に向けて、引き続き、協議を進めていく。	A：達成できた
取組3	枝・草・葉や生ごみの資源化検討	家庭系生ごみのたい肥化事業の実施	生ごみの資源化(たい肥化)及び市内における資源循環のしくみに着目し、八王子市等の先行事例を参考に、生ごみたい肥化モデル事業を企画・立案し、参加募集を行った。また、還元されるたい肥の一部については、市内公有地への活用ルートを確認した。 主に審議会委員や促進員へ参加を募り、18世帯から参加の申込みを受けた。令和6年5月中旬を目途に開始することを目標とした。	A：達成できた
取組4	枝・草・葉や生ごみの資源化検討	せん定枝の資源化推進	市報、ホームページにより事業を紹介し、周知啓発を継続するとともに、環境フェアやふじみまつりにおいて、チップカー展示・実演を行い、事業を周知・PRすることにより、新規申込者の確保にも努めたものの、令和5年度の処理量は28tとなり、前年度比4tの減、前々年度比13tの減となり、年々減少している。 還元するチップについては、申込者の住環境に需要が左右されること、燃やせるごみとして無料収集に出せることなどから、利用者の9割をリピーターが占める状況となっている。 今後、事業の継続を図りつつも、剪定枝の資源化推進に向けて、近隣自治体の先行事例を参考に、たい肥やバイオマス発電事業などの新たなリサイクル方法について調査研究を進めていく。	C：達成が不十分であった
取組5	集団回収、拠点回収の推進	ごみ減量・リサイクル協力店の拡充及び制度の見直し	事業者のリサイクル活動の実態把握のため、協力店への聴取と、協力店以外の店舗における実態調査を実施。協力店での活動継続を確認するとともに、いずれの店舗においても積極的なリサイクルの活動が展開されており、定着が進んでいる実態を確認した。 制度開始当時の平成13年においては、資源有効利用促進法の制定など、事業者による自主回収・リサイクルシステムの構築が求められ、分別によるリサイクルへの積極的な取組に注目度が高い時代であった。 実態調査からも明らかなように、現在、事業者の経済活動においてリサイクルは基本として定着していることから、この社会情勢の変化に合わせた制度の見直しに向けて、審議会へ意見を伺いながら、検討を進めていく。	D：達成できなかった
取組6	プラスチック類の資源化	プラスチック製品の拠点回収における拠点拡充・回収品目の追加	企業との連携によるコンビニエンスストア敷地内でのペットボトル自主回収事業の導入については、1店舗当たり年間3トン以上の削減が見込める一方、自治体が負担するとされる収集・運搬費用や、処理施設の確保などの課題があり、引き続き、近隣自治体の動向を注視しながら、関係者との調整を図っていく。 公共施設でのインカートリッジの回収は順調に進み、回収拠点を地域福祉センター中心に10数箇所増設し、回収量が前年度の約2.5倍と増加した。 幼少期向けのプラスチック減量・リサイクルに向けた取組として、試行的に8月から、児童館で使用済み歯ブラシの回収を行った。回収量が223本/2kg程度と少量に留まったことに加え、衛生上の課題もあり、いったん休止とした。今後は、手法も含めた見直しの検討を進めていく。	B：ほぼ達成できた

実施計画事業番号	計画細目	計画実現のための取組	令和5年度の取組実績	達成状況
取組7	分別ルールの周知徹底	分別啓発用動画コンテンツの制作	クリーンセンターにおける粗大ごみや資源物の処理状況、施設の重要性について理解を深めていただけるよう、新たに紹介動画コンテンツの制作に着手した。 当初、粗大ごみの解体や資源物の中間処理に関する「施設紹介」を想定したが、幅広い世代が興味をもち、環境学習にも活用できるコンテンツにできるよう、著名人の起用も考えながら、具体的なテーマ設定など、関係者ととともに台本の見直しを開始した。令和5年度の検討内容を基に、令和7年1月の収録に向け、準備を進めていく。	B：ほぼ達成できた
取組8	持込ごみの分別の徹底	事業系可燃ごみの組成分析調査実施	一般廃棄物処理基本計画（第3次）に基づき、事業系ごみの削減対策に向けた基礎情報とするため、新たに事業系ごみ（可燃）の組成分析調査を実施した。 飲食系・オフィス系の2種類で実施。飲食系においては、調理くずや食品ロスが5割以上、オフィス系においては、古紙が6割超となり、業種ごとでの特徴や課題を把握することができた。 今後は、調査結果を生ごみの減量や古紙リサイクルの推進などの取組に活用していく。 併せて、今後の施策展開状況に応じ、効果的な調査に向けて、内容の拡充や頻度など、随時検討していく。	A：達成できた
取組9	効率的な収集運搬体制の維持	ふじみリサイクルセンター更新対応（収集方法等検討、情報収集）	ふじみ衛生組合リサイクルセンターの更新についての情報共有・意見聴取の場として設置するふじみ衛生組合のワーキングチームに構成市として参加し、情報収集、意見交換を行った。 令和6年度から実施する更新工事の期間中においては、現在の収集・運搬及び処理体制の維持を基本としながら、プラスチック及びペットボトルの処理については、原則、熱回収を予定している。施設更新後を見据え、この期間の処理の変更が市民のリサイクルに向けた意識低下を招かぬよう、分別・収集方法は変更しない旨、両市の共通事項として決定した。併せて、ふじみ衛生組合、三鷹市、調布市のそれぞれが、店頭回収の促進などによるプラスチックごみ、ペットボトルごみの削減を促すため、令和6年度、3者で同時期に広報を実施するよう調整を図った。 製品プラスチックの資源化を実施した場合の収集体制については、先行して実施している近隣自治体の事例等を参考に、引き続き検討を進めていく。	A：達成できた
取組10	災害廃棄物処理計画の策定等	災害廃棄物処理計画の策定	東京都は、地震被害想定の見直しに伴い、令和5年9月に災害廃棄物処理計画を改定。これを受け、市は、災害に伴い発生する廃棄物の処理体制を確保し、適正に処理することにより、市民の生活環境の保全、公衆衛生上の支障を防止し、早期の復旧・復興に資するため、令和6年3月に「調布市災害廃棄物処理計画」を策定した。 災害廃棄物の処理については、平常時からの災害への備えが重要となることから、以下の取組を進め、計画の実効性を高めていく。 ・ 市民への災害廃棄物の処理に関する事前広報、意識啓発、周知 ・ ごみ処理の防災訓練 ・ 職員の研修・訓練 等	A：達成できた
取組11	促進員や審議会との連携・協働	促進員との連携強化	一般廃棄物処理基本計画（第3次）で位置付けた促進員との連携による3Rの推進については、コロナ禍なども相まって活動が縮小傾向であったが、今後の活動の活性化のため、今年度は、市で実施している3Rの推進事業に関する見学会を実施した。 また、意見交換会や、次年度から開始する生ごみ資源化モデル事業への参加を促すなどの新たな試みも展開した。 これらの取組状況も踏まえながら、促進員との連携促進について、引き続き検討を進めていく。	A：達成できた
取組12	市民・市民団体等との協働	市民団体等との連携強化	ブランチャ調布でのイベント開催にあたり、市の粗大ごみリユース品の展示販売に合わせ、市民団体等との協働による幼少期向けイベントについて、地元自治会や施設との調整も図りながら、検討を進めたものの、実現には至らなかった。 また、審議会との共催で実施したエコフェスタは、小学生をターゲットにコンテンツの充実を図ることができたが、事前周知・広報が十分でなかったことから、集客面で課題を残した。 これらの経験も踏まえ、幼少期向けイベントの開催について、令和6年度中を目標に、引き続き、コンテンツ、開催時期等の検討、団体等との連携強化・調整を進めていく。	C：達成が不十分であった
取組13	事業者・事業者団体等との連携	事業者との協働推進	事業者の3R促進に向けて、各事業者が行っている3Rの取組について調査・ヒアリングを実施し、良好な取組については、広報誌で紹介し、他の事業者への波及を図った。 また、事業者との協働による新たな取組として、事業系生ごみの減量実証に向けた検討や、SNSを活用したごみ分別システムの共同開発を進めた。	A：達成できた

実施計画事業番号	計画細目	計画実現のための取組	令和5年度の取組実績	達成状況
取組14	イベント・キャンペーンの実施	エコフェスタ・環境フェア等のイベント強化	駅前広場で開催した環境フェアでは、初の試みとしてチッパー車の展示・実演を行い、また、粗大ごみのリユース品については、181点を販売するなど、好評を博した。 4年ぶり開催の第7回エコフェスタに関しては、審議会と共催し、新たに収集車両の乗車体験を組み込むなど内容の充実化を図った。一方、事前の広報・PRが十分でなかったことから、集客面は課題となった。今回の結果をふまえ、今回は、特に、開催時期、効果的な開催会場の確保、広報・PRの強化について、取り組むことを確認した。	B：ほぼ達成できた
取組15	教育機関との連携	幼稚園・保育園等との連携強化による環境教育の推進	ごみ減量啓発ポスターの募集について、テーマを4つにして明確にし、地域福祉センターへのチラシ配架やSNSの活用など、広報を強化したことにより、231点の応募があり、前年度から63件増となった。特に、収集作業員をテーマにした作品については、収集運搬事業者に提供し、収集員の意欲向上に資する取組につなげた。今年度から力を入れて取り組んでいる収集車両を活用した幼少期向け出前講座は大変好評で、申込件数や受講者数の大幅な増加（件数9件→22件、受講者396人→969人）につなげることができた。 私立小中学校等との交流を深めるなどし、クリーンセンターの取組や3R推進に向けた啓発に努めた。また、新たなキャラクターのネーミングについて、出前講座に参加した保育園等に依頼するなど、環境学習の推進に努めた。	A：達成できた
取組16	二酸化炭素削減に向けた取組	指定収集袋へのバイオマス等の導入に向けた検討	環境配慮素材を用いた指定収集袋の導入について、一部自治体でバイオマス素材を導入しているものの、コストの面から躊躇している自治体が大半である状況を把握した。 引き続き、環境配慮素材を提供する事業者のヒアリングや、先行導入する周辺自治体等の情報収集に努めていく。 また、現行仕様と同等の品質、コストによる供給可能な環境配慮素材の見込みがついたため、製造・供給する代理店との調整を継続しつつ、おむつ袋など一部での先行導入に向けて更に検討を進めていく。	A：達成できた

## ○「達成状況」の評価指標

A: 達成できた	(80%～100%)
B: ほぼ達成できた	(50～79%)
C: 達成が不十分であった	(20～49%)
D: 達成できなかった	(0～19%)